



志楽小学校だより

舞鶴市立志楽小学校
令和6年度学校だより
第3号
令和6年5月31日発行

「人と関わる」喜びを育む

若葉が初夏の日差しに輝く季節となりました。

5月21日に、今年度の「なかよし班活動」が始まりました。本校の「なかよし班活動」は、縦割り班という言い方もされますが、1年生から6年生までが交じり合って班を構成し、一緒に遠足に行ったり、業間休みに遊んだり、運動会に取り組んだりします。24日に行われた遠足では、行き帰りには6年生が1年生の手を引いたり、荷物を持ったりして歩き、青葉山ろく公園では4・5・6年生が考えた遊びでみんなが活動したり、一緒に弁当を食べたりして楽しみました。

こうした異年齢での交流活動が全国の学校で取り組まれるようになったのは、平成20年公示の学習指導要領に記載された頃からだということです。どうして学校でこのような活動に取り組むようになったかという、かつては、近隣の子ども同士の交流や、家庭の中できょうだい同士の交流の中で、「人との関わり方」が遊びを通して自然に身に付いていました。それが、少子化によってきょうだい数や地域の子どもの数が減ったり、近所づきあいや親戚づきあいが減少したりする中で、子どもたちが「人と関わる」ことに自然に慣れ、「人と関わりたい」思いを自然に感じ取っていく、そんな場や機会が失われてきました。そこで、学校という同じ地域の異年齢の子どもが集まってくる場所で育てようということになりました。社会性の基礎となる「人と関わりたい」と思う気持ちは、自らの体験によってのみ、獲得されるものです。他の子どもと一緒に遊んだり、活動したりすることを通して、「人と関わることって楽しい!」と感じるところから始まります。また、1年生から6年生までが一緒に活動する中で、年長の子どもがこれまでの体験に基づいて自分の役割を自覚し、年少の子どもは年上の子どもの言動から学びます。それが6年間の中で役割を変えていく中で自然と身に付いていきます。



志楽小学校の「なかよし班活動」でも、毎年、活動を繰り返す中で「来年、自分はある活動をするんだな」「そういえば、以前、上級生にお世話をしてもらってうれしかったな」「最高学年6年生って、みんなのことをまとめてくれてすごいな」という声が聞かれます。活動を通してみんなが「関わり合う喜び」を感じ、上級生には、一生懸命行動したことが下級生の役に立った、手本になったという思いを持ち、下級生は、上級生のしてくれたことに感謝し、自分もあんな上級生・

高学年になりたいと憧れの気持ちを持って、それを成長につなげてほしいと思っています。

6月は「いじめ対策強化月間」です。全ての子どもたちに居場所があり、互いに思いやりのある集団づくりを目指し、いじめの早期発見・早期対応につなげるとともに、児童のよりよい人間関係づくりに努める取組をします。『いじめのない、明るく楽しい学校をめざして』のアンケート実施後、児童一人一人が担任と個別面談を行います。「いじめはしない、させない、許さない」ことの指導を徹底し、個々のよさを大切にしながら、人を大切に思う心を育てていきます。

ご家庭や地域でお気付きになることがありましたら、すぐにお知らせいただくとともに、学校と連携してご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

校長 西井 佳寿美
教職員 一同



6年生修学旅行 奈良・大阪方面 5月9～10日

気持ちの良い五月晴れの下、奈良公園を散策したり、USJを楽しんだり、充実した2日間を過ごしました。新型コロナウイルス感染症が5類になって約1年、「With コロナ」「After コロナ」として、子どもたちは思い切り活動を楽しんでいました。

これから続く様々な活動も、他の感染症とともに予防に努めながら取り組んでいきたいと思えます。

